

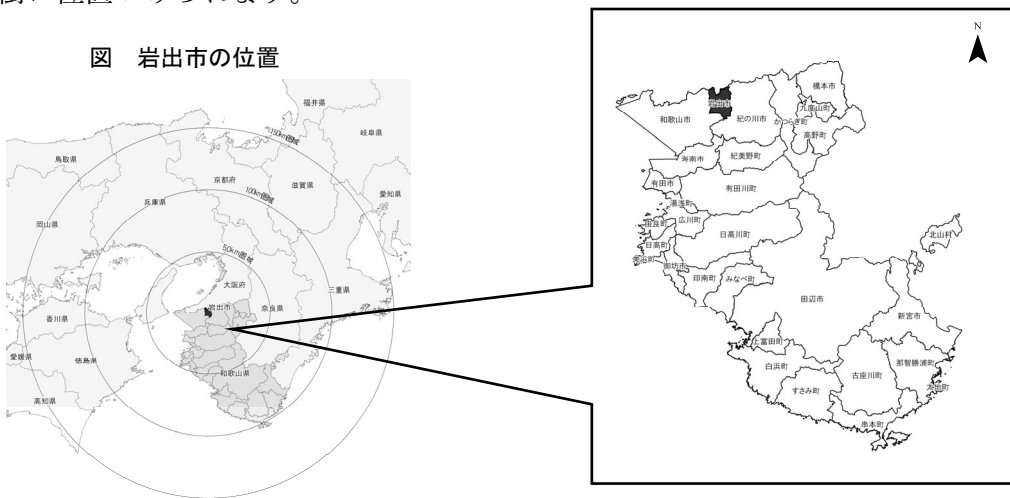
## II 岩出市の概況

### 1. 広域的な位置づけ

本市は、和歌山市の中心部から東に約 15km、関西国際空港から約 30km、大阪都心部から約 50km 圏内にあり、交通面では、国際拠点空港となる関西国際空港に近く、大阪方面には市の中心部を南北に県道泉佐野岩出線、和歌山市方面には東西に走る国道 24 号の主要幹線道路に加え、平成 29 年 3 月の京奈和自動車道紀北西道路（岩出根来インターチェンジ～和歌山ジャンクション）の開通により、和歌山県域の京奈和自動車道が全線開通となったことで、広域交通の利便性も飛躍的に向上しています。

和歌山市や泉南地域、大阪都市圏への交通アクセスに恵まれており、和歌山県北部の交通の要衝に位置づけられます。

図 岩出市の位置



### 2. 自然的条件

#### (1) 地形

本市は、北部に緑豊かな和泉山脈が東西に連なり、南部には大台ヶ原を水源とする清流紀の川が東西に流れています。

平野部は、田園風景広がり緑豊かな自然と調和しています。

市域面積は、東西に約 5.7km、南北に約 8.8km の 38.51k m<sup>2</sup>であり、さらに可住エリアである平野部の南北距離は約 4.7 km で、市内の移動に負担の少ないコンパクトなまちです。

#### (2) 気候

気候は、瀬戸内式気候に類似し、温暖で年間降水量も少なく比較的穏やかな気候に恵まれています。

単位：(°C、mm)

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温	6.0	6.7	10.0	15.2	19.8	23.3	27.4	28.4	25.0	19.4	13.7	8.6
降水量	50.8	69.3	99.2	93.8	127.0	173.8	170.2	120.9	192.3	174.7	98.0	72.5

出典：アメダスデータ、過去 20 年平均値、観測点和歌山

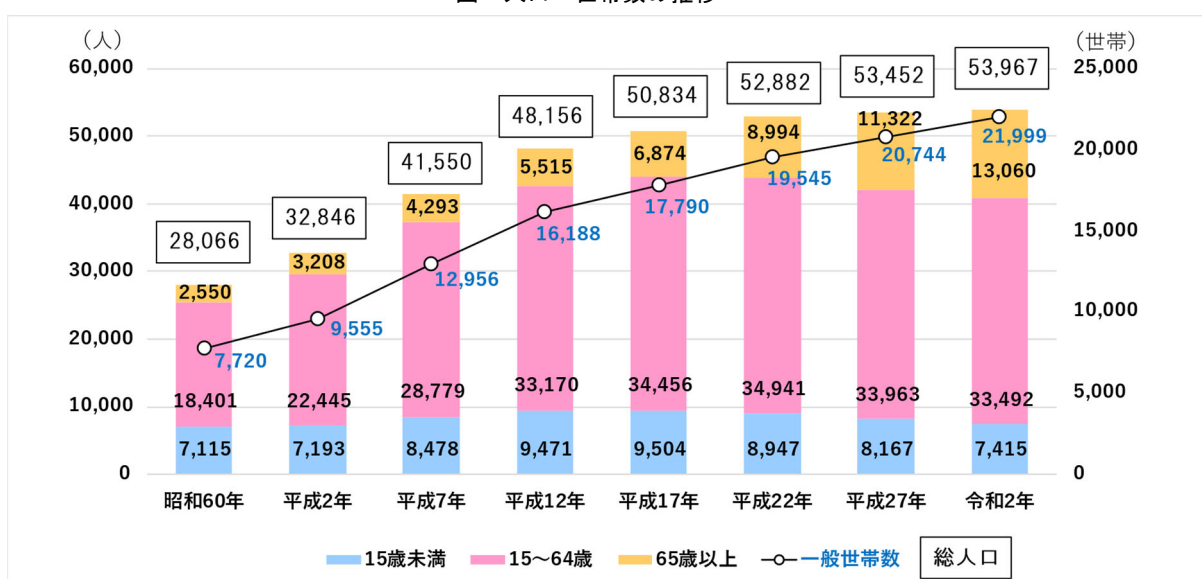
### 3. 社会的条件

#### (1) 人口及び世帯数

本市では、首都圏を除きほとんどの市町村が人口減少中、和歌山市の中心部や泉南地域、大阪都市圏への交通利便性の高さなどから、平成12年までは急激に人口を増加させ、それ以降も緩やかな人口増加を続けています。

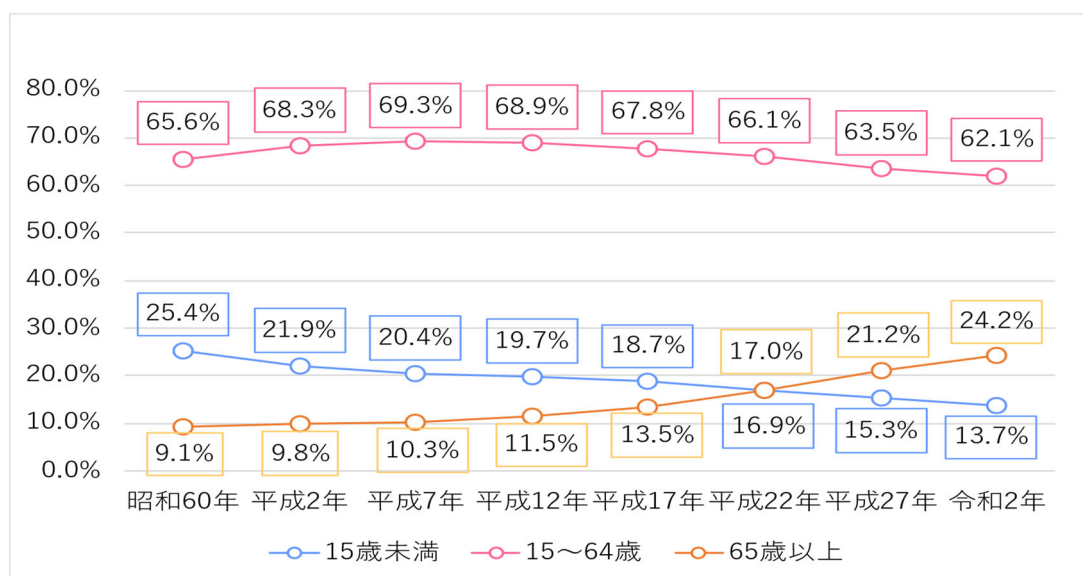
人口構造については、平成17年をピークに年少人口が減少に転じ、生産年齢人口については、平成12年以降ほぼ横ばいとなっています。また、高齢者人口は、年々増加傾向にありますが、生産年齢人口が大きな減少に転じていないため、高齢者の割合は全国平均（令和2年28.7%）に比べ低い状態にあります。

図 人口・世帯数の推移



出典：国勢調査

図 年齢階層別人口の割合推移



出典：国勢調査

本市の過去12年間の住民基本台帳に基づく人口動態では、出生と死亡による自然動態は、平成30年から減少に転じています。また、社会動態においても、年によりばらつきはありますが、概ね転入が減少、転出が増加傾向にあり、全般的にみると転入超過の傾向はおさまりつつあります。

表 要因別人口動態

単位：(人)

区分	自然動態			社会動態				増減
	出生	死亡	差引増減	転入	転出	その他	差引増減	
平成21年	552	328	224	2,004	1,880	－	124	348
平成22年	524	370	154	2,053	1,825	－	228	382
平成23年	519	377	142	1,910	1,763	－	147	289
平成24年	483	380	103	1,934	1,964	▲ 8	▲ 38	65
平成25年	471	403	68	1,966	1,935	▲ 14	17	85
平成26年	509	376	133	1,952	1,819	▲ 15	118	251
平成27年	489	373	116	1,816	1,783	▲ 8	25	141
平成28年	467	361	106	1,760	1,779	▲ 4	▲ 23	83
平成29年	459	427	32	1,827	1,795	▲ 10	22	54
平成30年	418	447	▲ 29	1,878	1,892	▲ 4	▲ 18	▲ 47
令和元年	416	440	▲ 24	1,931	1,810	▲ 11	110	86
令和2年	414	429	▲ 15	1,761	1,739	▲ 6	16	1

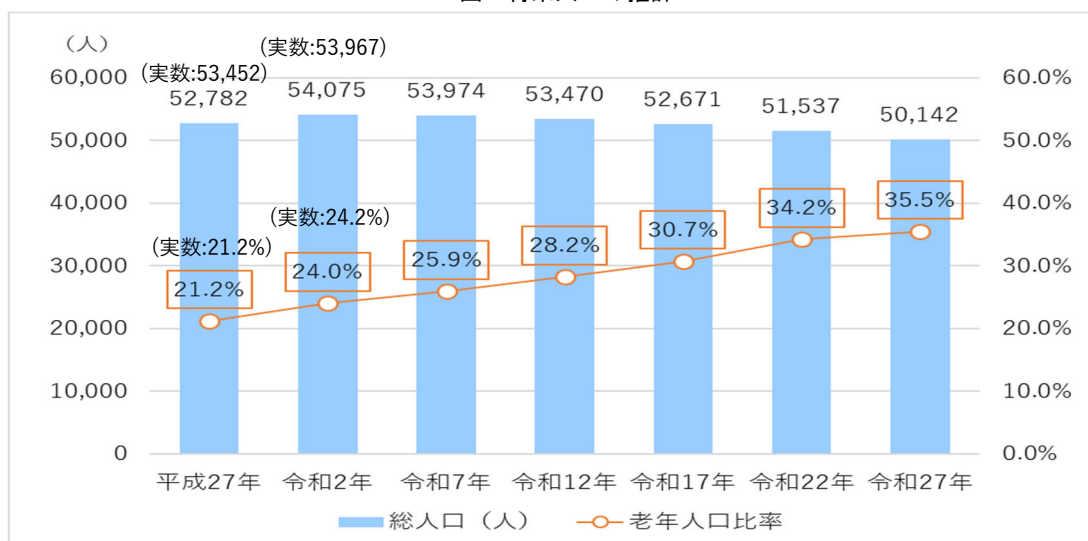
出典：岩出市住民基本台帳人口

## (2) 将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の市区町村別将来推計人口(平成30年12月推計)」によると、本市の総人口は、令和27年に50,142人になると推計され、また、65歳以上の老年人口比率は、令和27年に約36%になると予測されています。

今後、少子高齢化の進展に伴い、人口構造の変化が見込まれる中、本市の人口は緩やかに減少し、老年人口比率は上昇するものと考えられます。

図 将来人口の推計

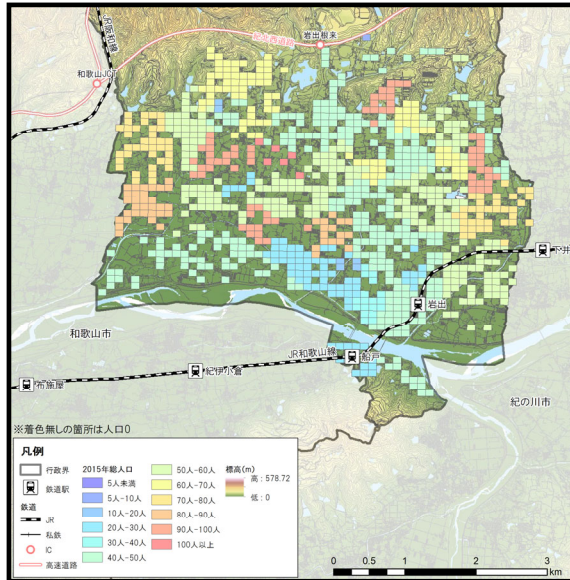


出典：国立社会保障・人口問題研究所推計

### (3) 人口密度

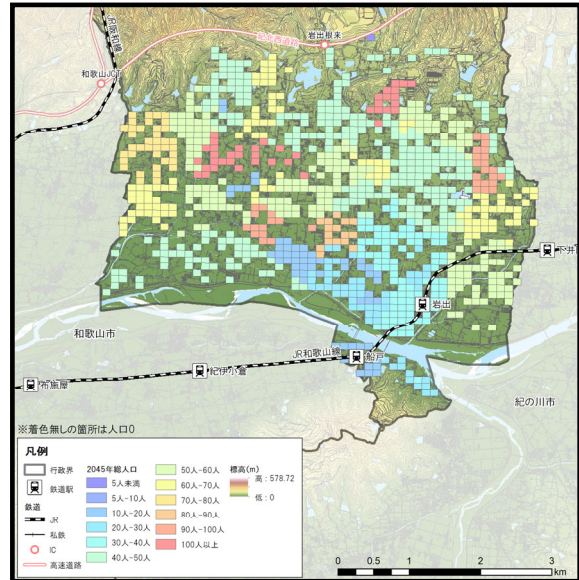
2015年と2045年の本市の人口密度分布を国立社会保障・人口問題研究所の将来人口予測ツールを用いて算出しました。2045年には、市道山西国分線（農免道路）の北側エリアでは比較的人口密度が維持されていますが、その南側では人口密度が低下すると推計されています。

図 人口密度分布（2015年）



出典：国勢調査

図 人口密度分布（2045年）



出典：国立社会保障・人口問題研究所推計

### (4) 昼夜間人口

本市の昼夜間人口比率は79.0%となっており、夜間人口が昼間人口よりも多くなっています。本市に居住している就業者・通学者は約2.8万人であり、うち本市内での就業者・通学者は約1.0万人と、36.2%を占めています。市外への就業者・通学者は、和歌山県内では和歌山市が30.7%と多く、他府県では大阪府が11.6%と多くなっています。

表 就業者・通学者の状況

単位：(人)

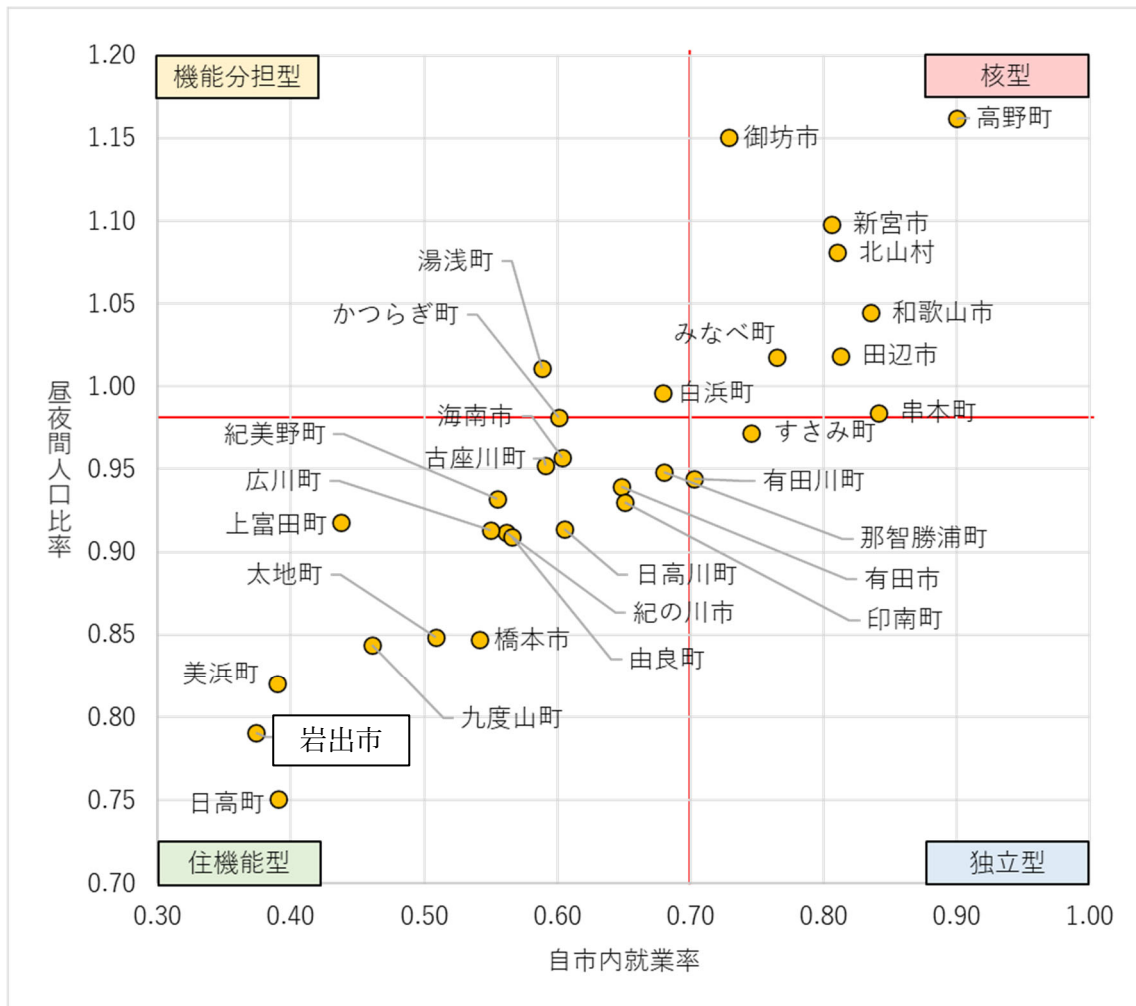
	和歌山県内				他府県				流出人口 合計	総人口
	岩出市内	和歌山市	紀の川市	県内他市町	大阪府	京都府	兵庫県	県外その他		
就業者	9,368	7,829	3,270	1,140	2,793	12	49	148	15,241	24,609
通学者	882	880	631	203	500	33	17	35	2,299	3,181
合計	10,250	8,709	3,901	1,343	3,293	45	66	183	17,540	27,790
割合	36.2%	30.7%	13.8%	4.7%	11.6%	0.2%	0.2%	0.6%	61.9%	100.0

※ 従業・通学市区町村「不詳・外国」と従業地・通学地「不詳」を除く 出典：国勢調査（平成27年）

## (5) 都市性格分類

和歌山県内の各都市について、都市性格分類を実施すると下図のようになります。本市は、市外で働く人が多く、夜間の人口が多い「住機能型」の都市であり、周辺都市などのベッドタウンとしての役割を担っています。

図 和歌山県内の都市性格分類 (H27 国勢調査をもとに作成)



<b>核型</b>	市内で働く人が多く、就業者、通学者を含めた昼間の人口が多い都市であり、生活圏における中心都市として機能
<b>独立型</b>	市内で働く人は多いが、昼間の人口は多くない都市であり、1都市である程度独立した生活圏を形成
<b>住機能型</b>	市内で働く人が少なく、夜間の人口が多い都市であり、周辺都市などのベッドタウンとして機能
<b>機能分担型</b>	市内で働く人は少ないが、昼間の人口が多い都市であり、職などの機能に特化

## 4. 土地利用・市街化動向

### (1) 土地利用状況

本市の北半分は和泉山脈が占めており、その山裾には多くの水面（ため池）が見られ、平野部では、農地と宅地が混在しており、国道24号沿線では商業施設が集積しています。

本市の土地利用状況は、山林等の自然用地が51.3%を占め、農地は、住宅需要や高齢化の影響を受け、農地としての活用が減少する中、18.5%と年々減少しています。また、宅地と施設用地を合わせた面積は19.5%を占め、農地と拮抗しています。

表 土地利用状況

単位：(ha、%)

総面積	農地		自然用地			宅地		
	田	畑	山林	水面	その他の自然	住宅用地	商業用地	工業用地
3,848.59	509.11	203.97	1601.30	120.56	251.74	465.24	120.27	48.23
100.00%	13.23%	5.30%	41.61%	3.13%	6.54%	12.09%	3.13%	1.25%

施設用地			道路用地	公共空地	その他の空地
農林漁業施設用地	公益施設用地	交通施設用地			
8.51	92.58	15.09	260.63	44.10	107.26
0.22%	2.41%	0.39%	6.77%	1.15%	2.79%

出典：都市計画基礎調査（平成28年）

### (2) 空家状況

空き家は全国的に増加し、犯罪、倒壊、景観など深刻な社会問題となっています。

本市では、「住宅・土地統計調査」において、全国、和歌山県の空家率より低い水準にあり、空家数も減少傾向で推移していますが、近年、少子高齢化の進展等の影響により、未利用住宅が増加傾向にあり、予断を許さない状況にあります。

表 空家動向

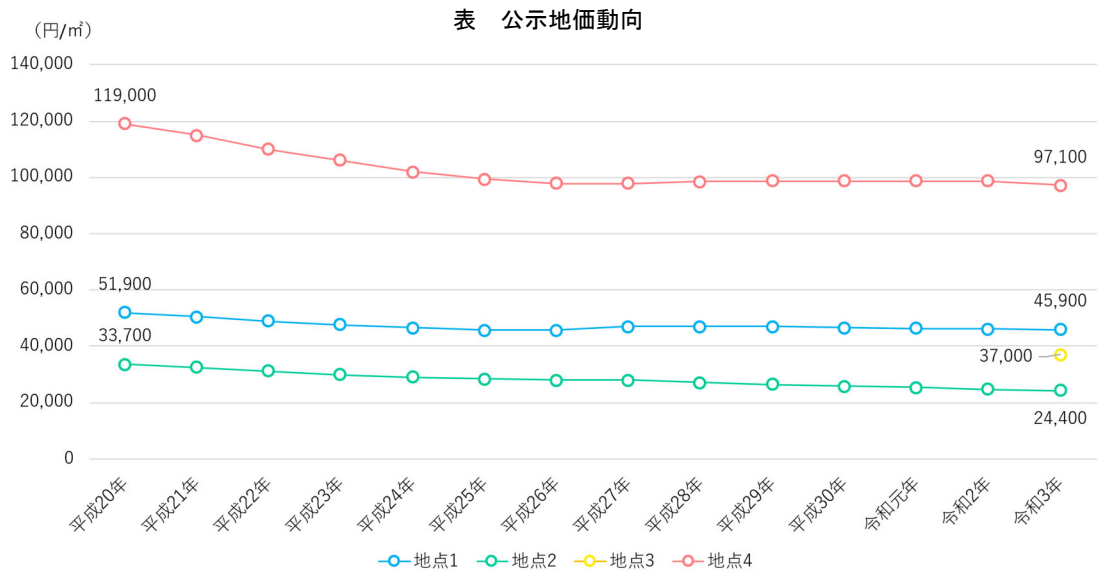
単位：(件、%)

	H15	H20	H25	H30
空家数	3,640	4,050	3,060	2,970
空家率 (岩出市)	17.6	17.9	13.0	12.1
(全国)	12.2	13.1	13.5	13.6
(和歌山県)	17.5	17.9	18.1	20.3

出典：住宅・土地統計調査

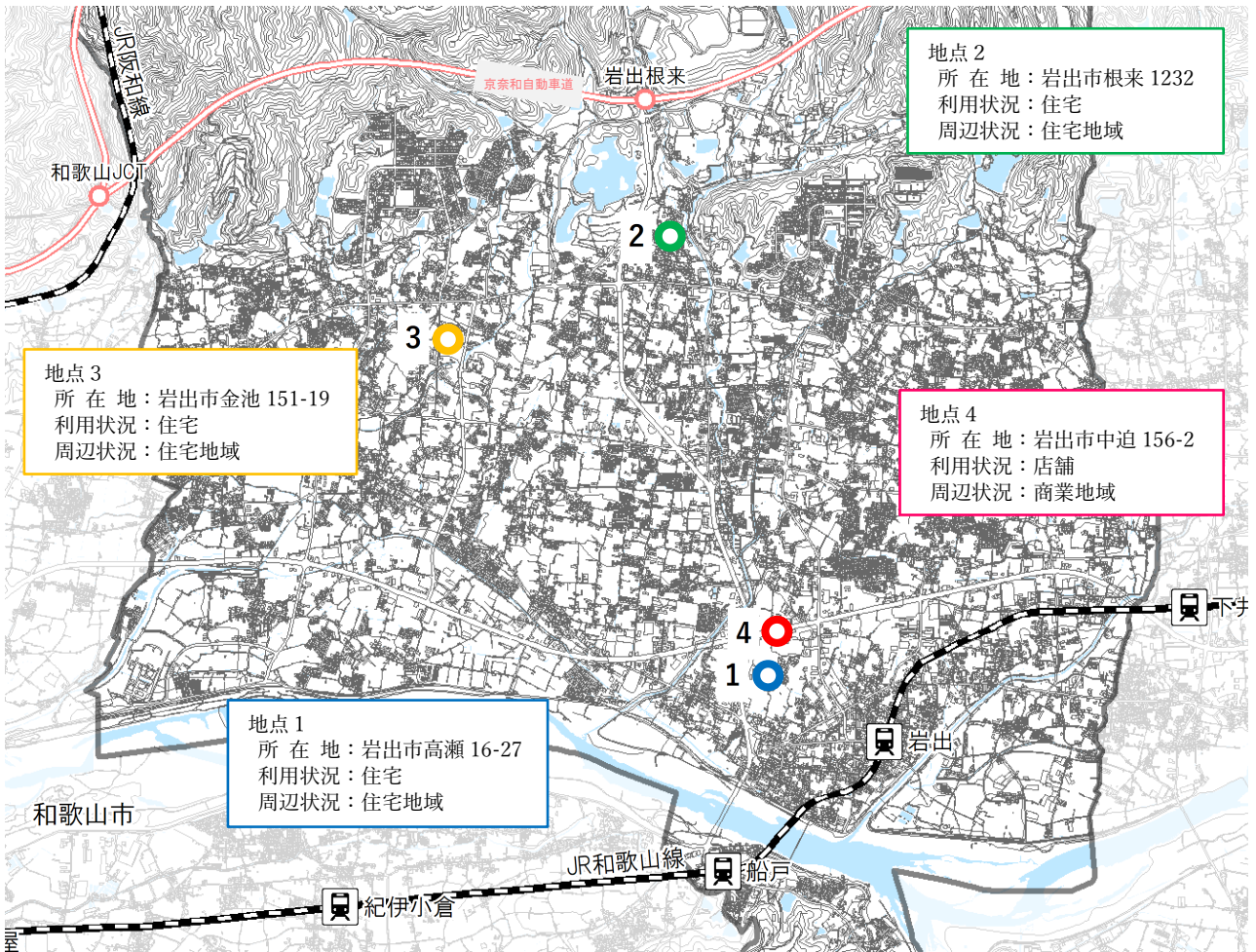
### (3) 地価

本市の地価は、若干の上下はあるものの、直近8年間は、ほぼ横ばいで推移しています。



出典：国土交通省、地価公示

図 地価公示位置図（令和3年）

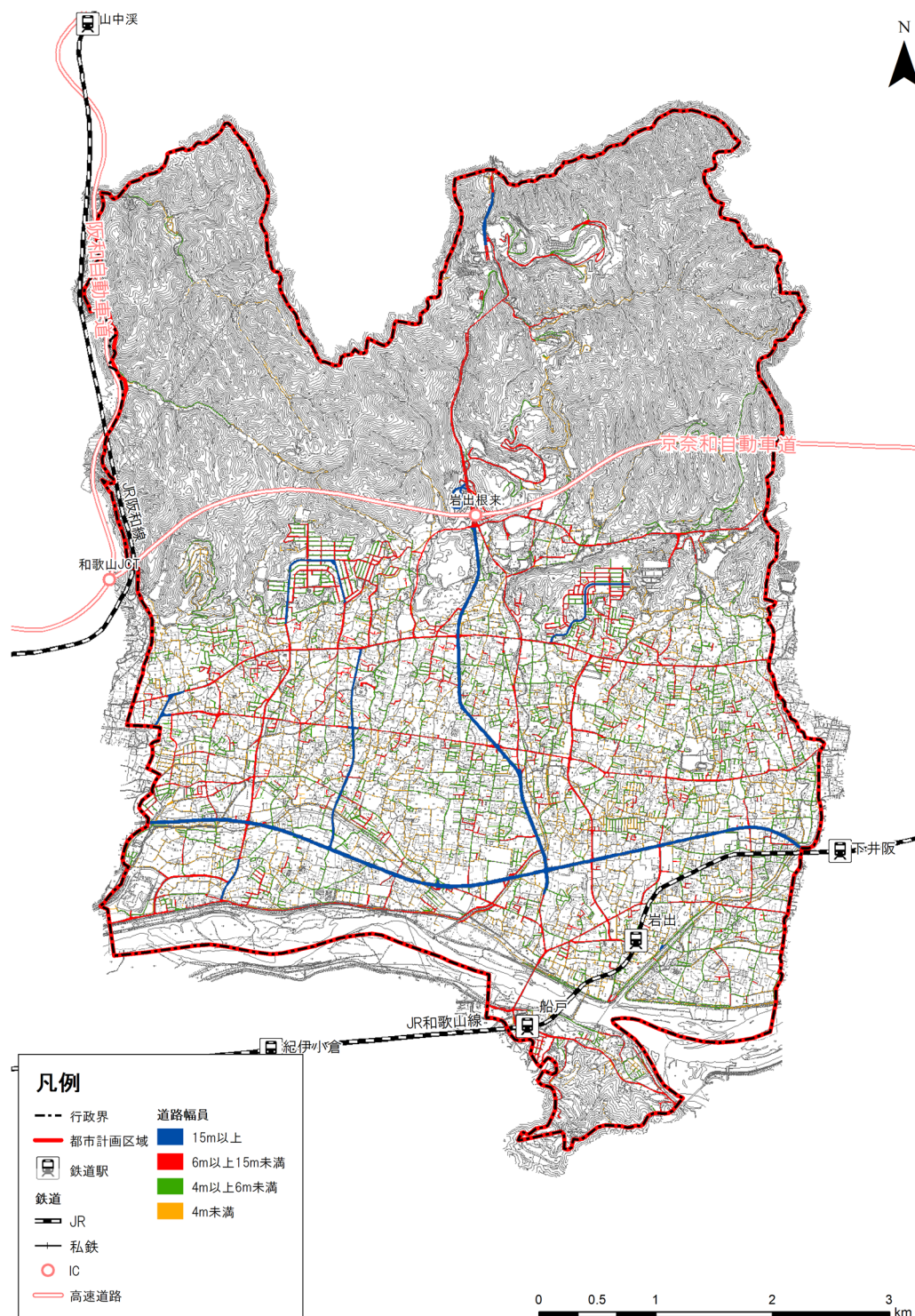


## 5. 都市施設・交通施設

### (1) 道路状況

本市では、東西に走る国道 24 号と県道粉河加太線、南北に走る県道泉佐野岩出線などの広域幹線道路を軸に、市道相谷中島線、市道野上野清水線、市道安上中島線、市道根来安上線といった主要幹線道路の整備を行うことで、市内の幹線道路網は概ね完成しています。

また、市域北部に京奈和自動車道及び岩出根来インターチェンジが完成したことにより、他府県を繋ぐ広域交通の利便性が飛躍的に向上し、広域的な交通の要衝となっています。





## (2) 公共交通

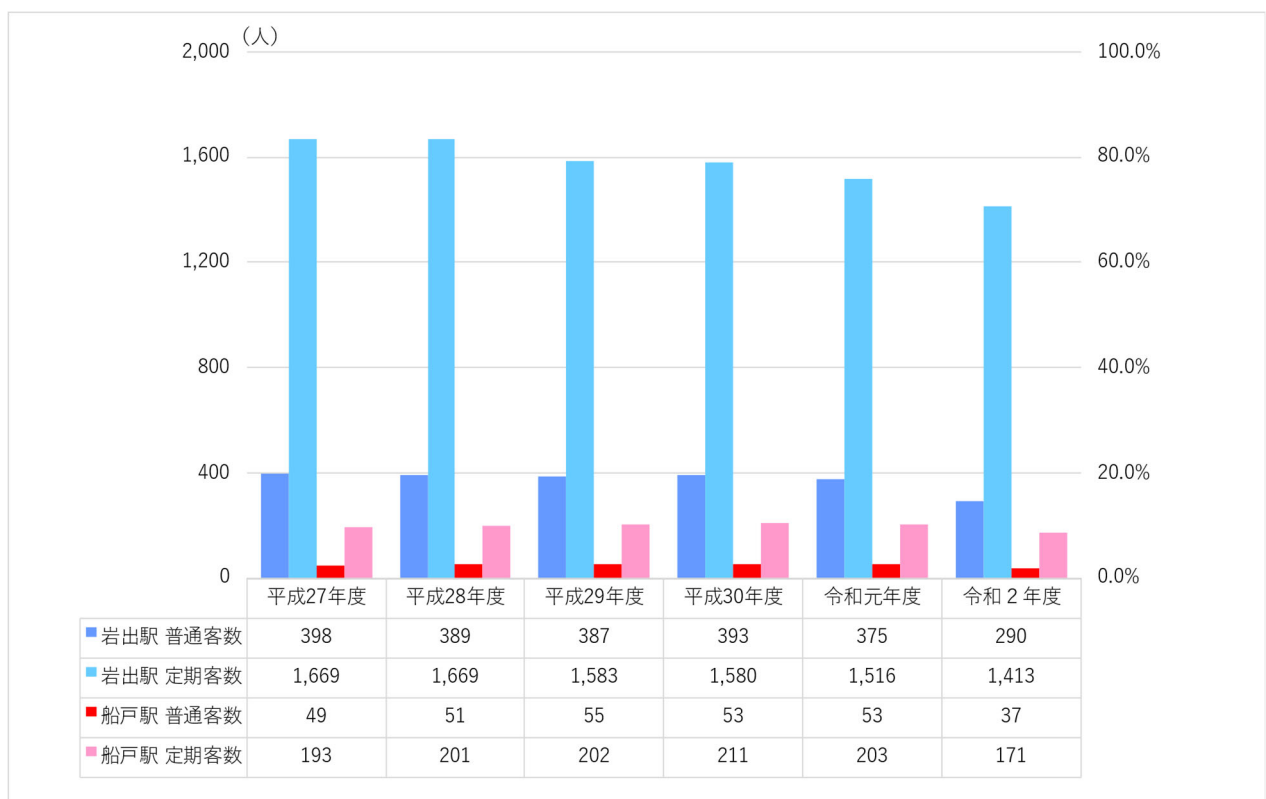
### ①鉄道

鉄道は、市街地南東部に JR 和歌山線が通っており、市内には、岩出駅と船戸駅があります。

鉄道の乗降客数は、岩出駅が最も多く、乗降客数の推移としては、岩出駅が若干の減少傾向にあり、船戸駅は概ね横ばいの状況となっています。

なお、乗降客数（平成 27 年～令和 2 年）の 6 年平均は、岩出駅で 1,944 人／日、船戸駅で 247 人／日となっており、定期券による利用者が両駅とも約 80％となっています。

図 鉄道の乗降客数の推移（1日当たり平均）



出典：和歌山県統計年鑑

### ②バス

本市では、岩出市内を巡回する「岩出市巡回バス」が 3 路線と、大阪方面への移動手段となる「大阪方面路線バス」、紀の川市、岩出市に点在する駅、市役所、スーパー、病院等の各施設を巡回する「紀の川コミュニティバス」のほか、和歌山市や紀の川市と結ぶ路線バスが走っています。

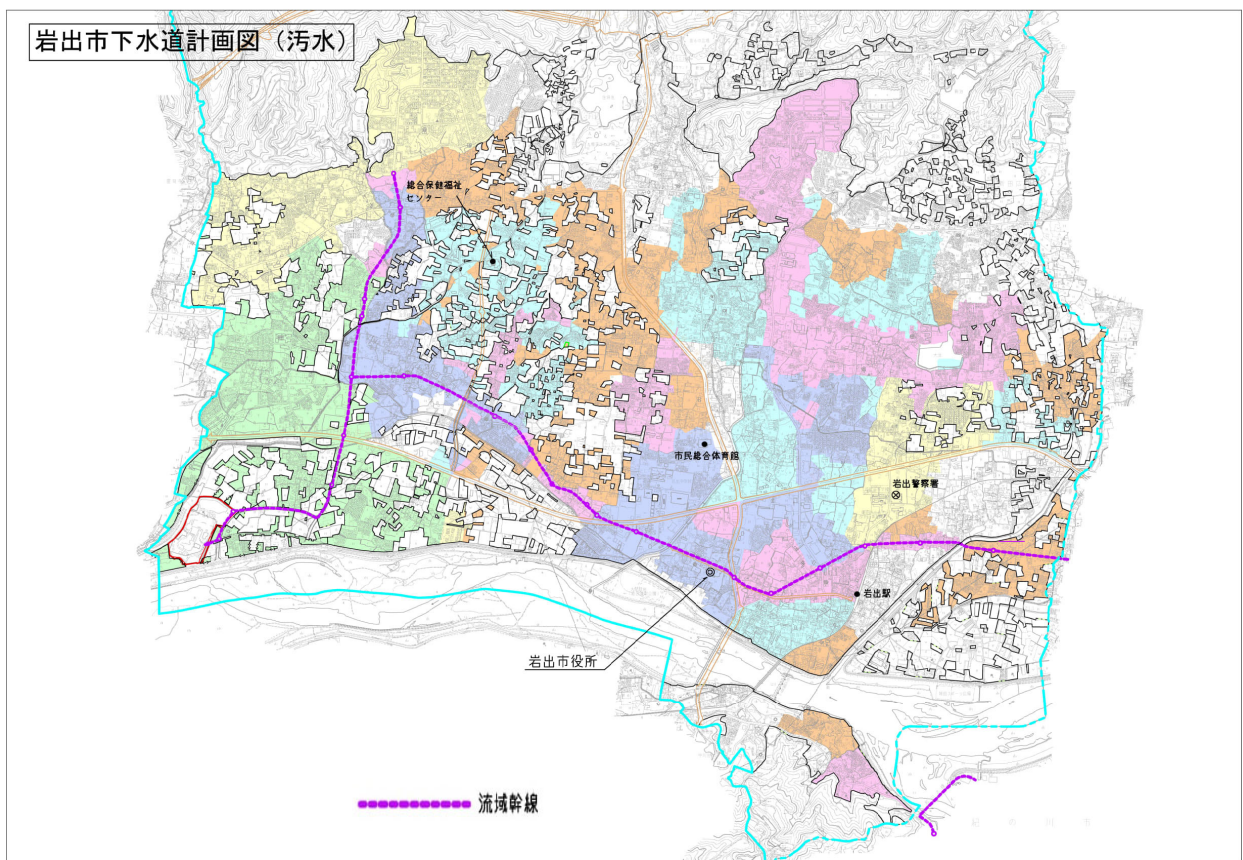
### (3) 公共下水道

本市では、計画処理人口 53,200 人、計画面積 1,420ha として、令和 12 年度の整備完了を目指して公共下水道整備を推進しています。

これまで、平成 13 年度に第 1 次認可区域に着手後、第 4 次認可区域までの 691ha の整備を完了し、第 5 次認可区域 (206ha) 及び第 6 次認可区域(206ha)の整備に着手しているところです。

なお、平成 20 年度に一部供用を開始した公共下水道の普及率は、令和 3 年度末時点で 51.9%となっています。

図 岩出市下水道計画図



	全体計画	第 1 次 認可区域	第 2 次 認可区域	第 3 次 認可区域	第 4 次 認可区域	第 5 次 認可区域	第 6 次 認可区域
計画処理面積	1,420ha	149ha	159ha	179ha	204ha	206ha	206ha
排除方式	分流式	分流式	分流式	分流式	分流式	分流式	分流式

## 6. 産業

### (1) 産業別人口の推移

産業別人口は、第三次産業の就業人口に占める割合が最も高く、増加傾向にあります。第一次産業、第二次産業は減少傾向にあります。

表 産業別就業者数の推移

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
第一次産業	就業者数 (人)	1,158	1,116	921	828	761	800	733
	割合 (%)	7.8%	5.7%	4.2%	3.5%	3.2%	3.2%	3.1%
第二次産業	就業者数 (人)	4,772	6,244	6,730	5,977	5,416	5,819	5,386
	割合 (%)	32.1%	32.1%	30.4%	25.4%	23.0%	23.2%	22.8%
第三次産業	就業者数 (人)	8,916	12,064	14,494	16,186	16,294	17,681	16,670
	割合 (%)	60.0%	62.0%	65.4%	68.7%	69.3%	70.5%	70.5%
分類不能の産業	就業者数 (人)	26	43	13	569	1,036	765	848
	割合 (%)	0.2%	0.2%	0.1%	2.4%	4.4%	3.1%	3.6%
総就業者数	就業者数 (人)	14,872	19,467	22,158	23,560	23,507	25,065	23,637

出典：国勢調査

### (2) 事業所・従業者数の推移

事業所・従業者数は、増加で推移しています。事業所規模別では、従業員1～4人の事業所が最も多く、従業者数は従業員30人以上の事業所が最も多くなっています。

従業者30人以上の事業所のみが、平成21年以降わずかに減少していますが、従業者数は増加しています。

表 事業所・従業者数の推移

(事業所：箇所、従業者：人)

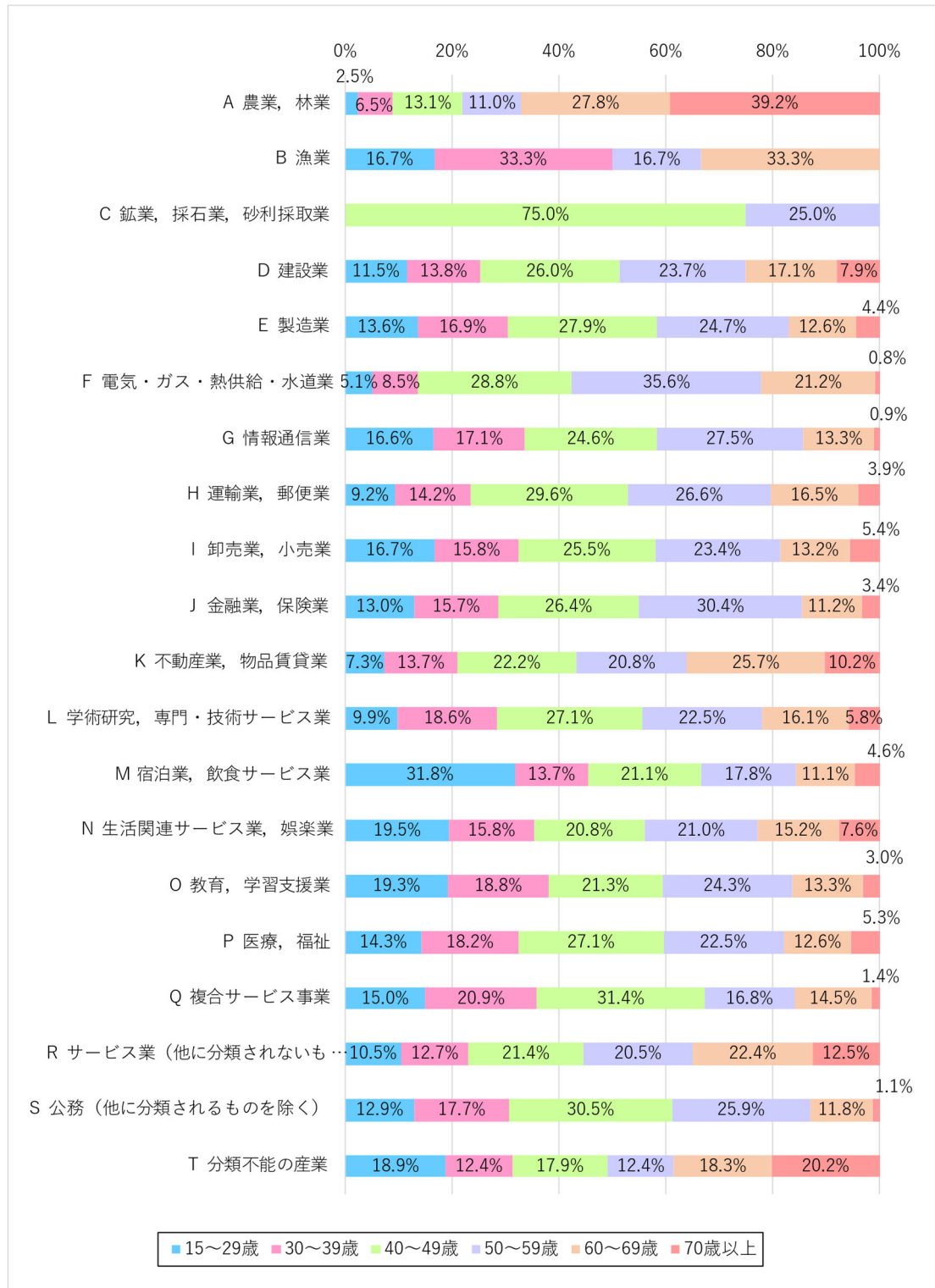
事業所 規模	平成16年		平成18年		平成21年		平成24年		平成28年	
	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者
1～4人	620	1,373	701	1,561	777	1,703	811	1,786	823	1,749
5～9人	221	1,417	267	1,700	285	1,870	303	1,952	317	2,065
10～19人	123	1,677	157	2,143	169	2,291	163	2,187	193	2,653
20～29人	36	837	44	1,031	59	1,394	66	1,583	78	1,844
30人以上	66	3,906	78	5,083	88	5,469	85	5,780	86	6,015
合計	1,066	9,210	1,247	11,518	1,378	12,727	1,428	13,288	1,497	14,326

出典：事業所・企業統計調査（平成16年～平成18年）、経済センサス（平成21年～平成28年）

### (3) 年齢階級別産業人口

年齢階級別産業人口は、農業、林業従事者の高齢化が顕著です。その他の産業では多少の差はありますが、様々な年齢階級の方が従事しています。

図 年齢階級別産業人口



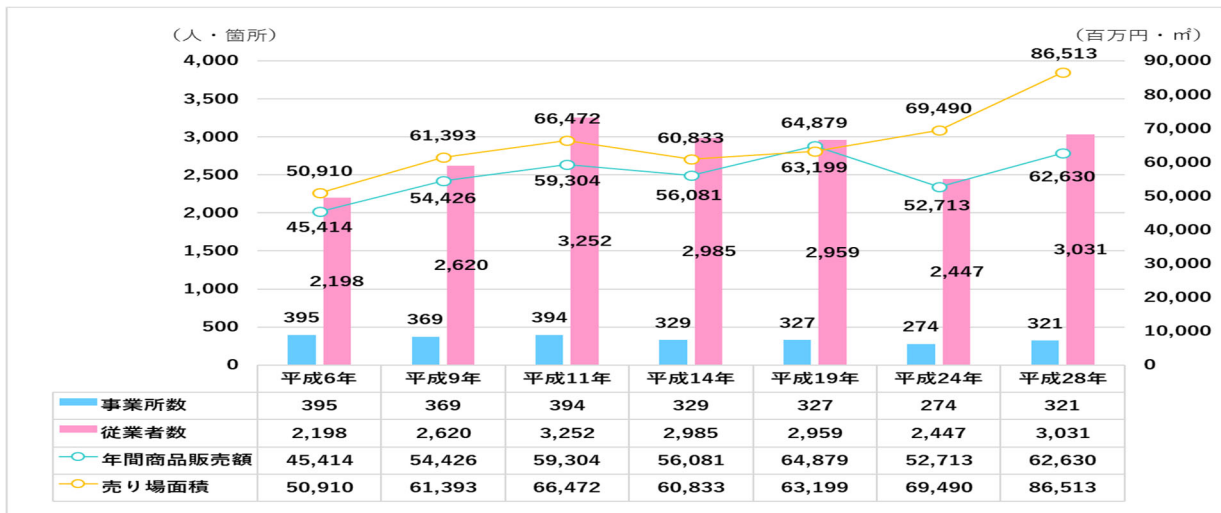
出典：国勢調査（令和2年）

#### (4) 商業

本市の商業は、事業所数の推移を見ると増減を繰り返しながらも横ばいの状況となっています。しかしながら、小売業の売り場面積は拡大していることから、店舗の大型化が進んでいることが伺えます。

年間商品販売額は平成 19 年に、従業者数は平成 11 年に一旦ピークを迎え、その後、減少傾向にありましたが、平成 28 年では増加に転じています。

図 卸売業・小売業の従業者数・従業者数・年間商品販売額、小売業の売り場面積推移

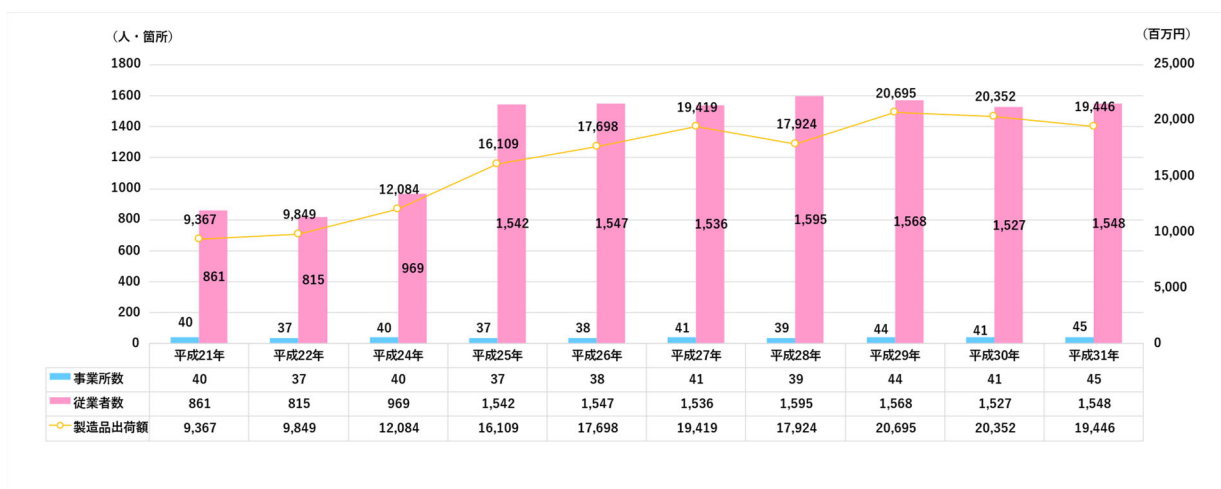


出典：商業統計調査（平成 6 年～平成 19 年）、経済センサス（平成 24 年・平成 28 年）

#### (5) 工業

本市の事業所数は、40 事業所前後で推移しています。また、従業者数は平成 25 年まで増加を続け、その後は 1,500 名強で推移しています。一方、製品出荷額は平成 27 年まで増加を続け、一旦落ち込むものの、平成 29 年以降は 200 億円前後で推移しています。

図 製造業の従業者数・従業者数・製造品出荷額推移

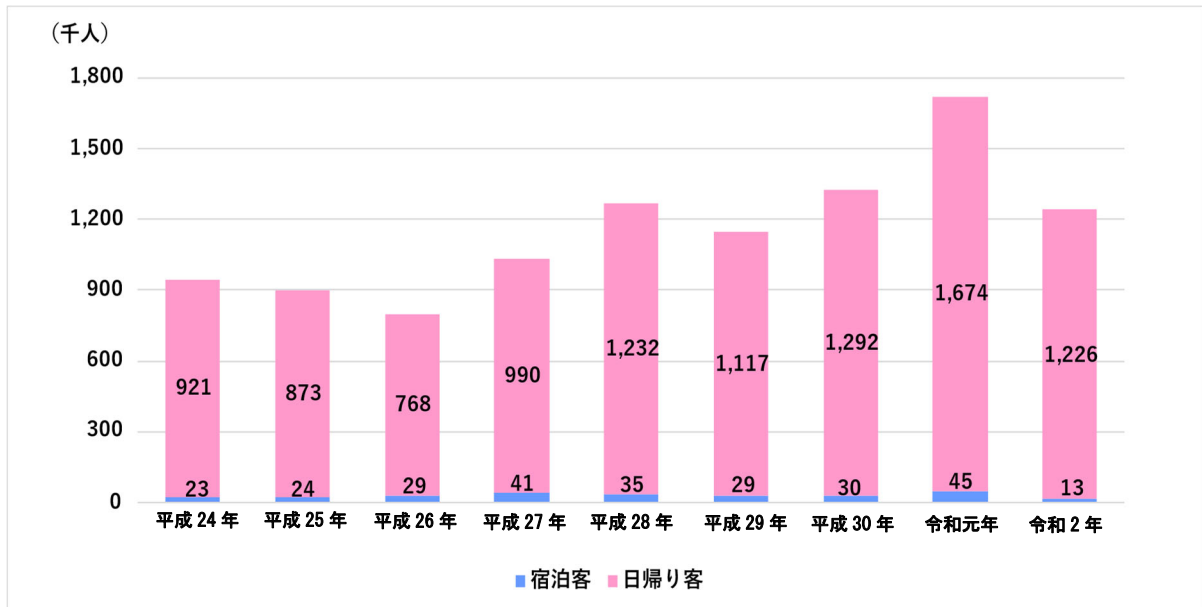


出典：工業統計調査（平成 27 年以外）、経済センサス（平成 27 年）

## (6) 観光

本市の観光客数は平成27年から増加傾向にあり、令和元年には172万人に達しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年は123万人に落ち込んでいます。

図 岩出市の観光客推移



出典：和歌山県統計年鑑